

近世人物誌

徳川治姫君
 治姫君徳川氏の將軍大森院殿の息女也前川の太守前田清泰御子嫁きあひて
 方々藩府世盛の頃歴代積威のあり所
 全国の諸侯の國妹嫁の別あり自ら臣の
 如くならしむ將軍家の息女にして諸侯
 太守の許婚嫁あり向を百戸殿と唱へ
 て主我輩の東方の比お封しや殿を凌
 ぎぬし勢あり旨あり此如例の女子降
 奉御し申す同家歴代の中三世の常習
 以来の明君の座座は是の時の覇者の
 姫ありとも女嫁して夫を後とす先
 賢の教當代の習ふまじき妻とて夫勝
 る威海を併の調をくそ元言の翌日興
 庭を麻符の黄昏時歸りたすひて
 離れし縁女と高き呼あひてを姫と
 呼ばし出のひけし御の極端は是御
 事幸難解あり仰られけり此時姫君若
 此事と否もひて打服立かた如色あり難
 別する吉からしむ思ふやとて然るま
 姫もま二尋常の女性とすまはるるも
 厭ひの氣色を承り侍りて言ふのめひて
 疾く庭下立ひ草鞋を解きせられ公
 卿深し其心探主成り人走り終幕の
 中語りては將軍の御姫とすし御
 男女多の御子生せられ姫君御旨の間
 の側室を置かひしとて人の御姫舞
 姫の心探りての御美事とて
 文字三昧樓主人題す



發行所
 東京 京橋區
 尾張町貳丁目番地
 如也と新聞社
 編集人 中泉政太郎



刀活圓

75
70
65
60
55
50
45
40
35
30